鉱工業生産活動，低調な動き

1．全国の動向

(1) 生産の動向

57年の鉱工業生産活動は，前年比0.3%の上昇と，第一次石油危機に伴う不況脱出後では，最も低い伸びとなった。

これを4半期ごとの推移についてみると，1～3月期に前期比△0.9%，4～6月期同△1.6%と2期連続低下したあと，7～9月期にVTR，電子計算機等の上昇から，一時的に同0.9%と上昇したが，10～12月期には再び同△0.9%低下と，低調に推移した。(注：以上前年比は55年基準値による)(表―1参照)

これを加工・組立型産業(一般機械，電気機械，輸送機械，精密機械)と素材型産業(鉄鋼，非鉄金属，窯業製品，化学(医療品を除く)，パルプ・紙・紙加工品，繊維(化学繊維))に分類した生産の動向をみると，一貫した上昇を続けてきた加工・組立型産業が，輸出の減少等から年間では前年比2.2%(注：以下前年比は50年基準値による)の上昇と低調な動きを示し，また素材型産業は，第二次石油危機後の55年に前年比△0.1%の低下となったあと，基幹産業である鉄鋼や石油化学等に減産の動きが広がっていること等から，57年は同△0.6%と3年連続の低下となった。

業種別の動向をみると，電気機械工業が前年比10.4%上昇と高い伸びを示したものの，その他の業種は輸出の減少や設備投資が力強さを欠いたこと等から，一般機械工業が同△0.9%，輸送機械工業が同△6.0%，精密機械工業が同△2.7%と軒並み低下した。また，造船，自動車用向けや建設需要の低迷等から，鉄鋼業が同△2.1%，アルミ地金の減産が進んだこと等によって非鉄金属工業が同△1.9%，建設需要の低迷から窯業・土石製品工業が同△2.7%の低下，天候不順等から衣類が不振であった繊維工業が同△1.4%の低下となった。一方，ファインケミカル，医薬品部門が上昇した化学工業が同2.8%の上昇，在庫調整の進んだパルプ・紙・紙加工品工業が同2.8%の上昇となった。その他では鉱業が

表―1　鉱工業指数の推移

(55年＝100，季調済)

	56年	57年	56年 1～3月期	56年 4～6月期	56年 7～9月期	56年 10～12月期	57年 1～3月期	57年 4～6月期	57年 7～9月期	57年 10～12月期
生産	101.0	101.3	99.5	99.4	101.7	103.2	102.3	100.7	101.6	100.6
対前期(年)増減率	1.0	0.3	0.5	△0.1	2.3	1.5	△0.9	△1.6	0.9	△0.9
対前年同期増減率	—	—	△1.4	△1.9	2.9	4.2	2.8	1.3	△0.1	△2.5
出荷	100.6	99.8	99.5	99.1	101.8	101.9	100.7	98.9	100.4	99.3
対前期(年)増減率	0.6	△0.1	0.5	△0.4	2.7	0.1	△1.2	△1.8	1.5	△1.1
対前年同期増減率	—	—	△2.4	△2.2	4.1	2.9	1.2	△0.2	△1.4	△2.6
在庫	102.1	101.3	103.2	103.8	101.4	99.8	101.5	103.0	102.2	98.5
対前期(年)増減率	2.1	△0.8	0.1	0.6	△2.3	△1.6	1.7	1.5	△0.8	△3.6
在庫率	104.9	105.3	106.8	108.1	103.6	101.1	104.3	108.4	105.2	103.3
対前期(年)増減率	4.9	0.4	△0.1	1.2	△4.2	△2.4	3.2	3.9	△3.0	△1.8

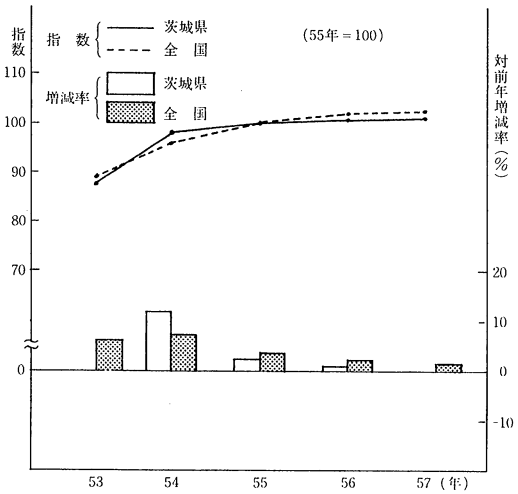
表―2　鉱工業指数の推移

(55年＝100)

		53	54	55	56	57
茨城県	生産	87.4	98.1	100.0	100.3	100.3
	対前年増減率(%)	—	12.2	1.9	0.3	0.0
	出荷	89.1	99.3	100.0	102.0	104.2
	対前年増減率(%)	—	11.4	0.7	2.0	2.2
	在庫	88.4	89.9	100.0	105.5	99.1
	対前年増減率(%)	—	1.7	11.2	5.5	△ 6.1
全国	生産	89.0	95.5	100.0	101.0	101.3
	対前年増減率(%)	6.3	7.3	4.7	1.0	0.3
	出荷	91.0	97.2	100.0	100.6	99.8
	対前年増減率(%)	5.9	6.8	2.9	0.6	△ 0.8
	在庫	93.2	92.5	100.0	102.1	101.3
	対前年増減率(%)	△ 2.0	△ 0.8	8.1	2.1	△ 0.8

昭和57年茨城県鉱工業指数の概要

図―1　鉱工業指数の推移（生産）



同△1.7%，石油・石炭製品工業が同△5.4%の低下，木材・木製品工業が同0.5%の上昇となった。

(2)　出荷の動向

57年の鉱工業出荷は，前年比△0.1%と7年ぶりに前年を下回った。これを国外，国内別にみると，輸出向け出荷は世界景気の停滞や保護貿易主義の影響から，前年比△2.5%低下となり，国内向け出荷は前年比0.5%の上昇となった。

(3)　在庫の動向

57年の鉱工業生産製品在庫は，前年比△0.1%と低下した。これは55年年央に素材型産業を中心として始まった在庫調整が，56年7～9月期には底を打ったかに見られたものの，56年10～12月期に輸出が低下したこと等から，57年1～3月期には加工・組立型産業の在庫が積み上り，4～6月期以降には加工・組立型産業においても，在庫調整が必要となったためである。

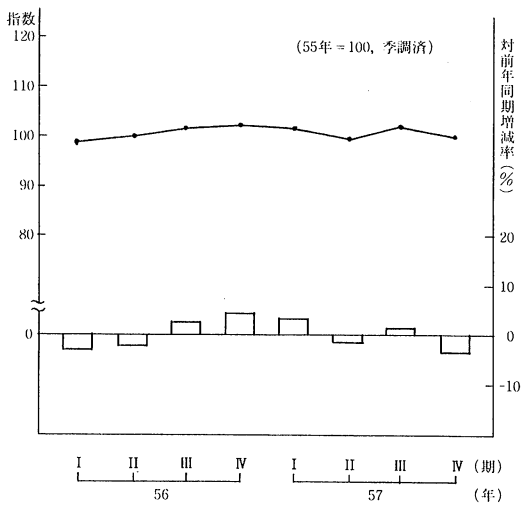
2．本県の動向

57年の本県における鉱工業指数をみてみると，生産は100.3で前年比0.0%，出荷は104.2で同2.2%上昇，在庫は99.1で同△6.1%低下であった。(表―2，図―1参照)

年間の動きを前期比でみると，生産は1～3月期△0.3%，4～6月期△2.6%の低下となり，7～9月期はビデオ等の好調から一時2.5%と上昇したが，10～12月期△2.4%と再び低下した。

出荷も輸出が停滞していることに加え，内需も活況感に

図―2　鉱工業指数の四半期推移（生産）



表―3　鉱工業指数の推移

(55年＝100，季調済)

		56年				57年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	季節調整済指数	98.6	99.8	100.0	102.0	101.7	99.0	101.5	99.1
	対前期増減率(%)	0.0	1.2	1.0	1.2	△0.3	△2.7	2.5	△2.4
	対前年同期増減率(%)	△2.5	△1.4	1.8	3.4	3.1	△0.8	0.7	△2.8
出荷	季節調整済指数	100.1	102.1	102.0	103.4	103.6	103.0	107.0	103.3
	対前期増減率(%)	1.0	2.0	△0.1	1.4	0.2	△0.6	3.9	△3.5
	対前年同期増減率(%)	△1.4	0.9	3.9	4.3	3.5	0.9	4.9	△0.1
在庫	季節調整済指数	107.3	108.1	104.1	102.3	101.5	96.9	97.9	100.0
	対前期増減率(%)	2.4	0.8	△3.7	△1.7	△0.8	△4.5	1.0	2.1
	対前年同期増減率(%)	15.0	11.4	△0.7	△2.4	△5.4	△10.4	△5.9	△2.3

表－4　業種別対前年増減率　（増減率，単位：%）

業種	生産 56年	生産 57年	出荷 56年	出荷 57年	在庫 56年	在庫 57年
鉱工業	0.3	0.0	2.0	2.2	5.5	△ 6.1
鉱業	△14.7	△48.3	△ 7.5	△46.9	15.2	447.7
製造工業	0.3	0.1	2.0	2.2	5.4	△ 5.9
鉄鋼業	△ 4.2	0.5	△ 6.8	8.4	18.6	△ 5.4
非鉄金属工業	8.5	4.1	6.9	7.6	13.5	△ 7.4
金属製品工業	△16.0	△ 1.6	△13.5	18.3	△30.6	8.4
機械工業	7.0	0.7	13.7	1.7	14.3	△ 8.0
一般機械工業	△ 6.9	△ 3.5	5.6	△ 0.2	16.3	△ 3.7
電気機械工業	15.5	4.8	21.4	5.9	9.0	△ 9.8
輸送機械工業	7.1	△ 5.0	5.4	△ 6.8	21.6	△68.4
精密機械工業	17.7	△ 3.2	22.3	△ 3.7	54.2	△ 3.1
窯業・土石製品工業	1.6	△ 6.3	1.1	△ 5.2	9.1	3.4
化学工業	△ 8.2	△ 7.2	△ 4.7	△ 5.5	2.1	△ 6.7
石油・石炭製品工業	△ 6.6	△13.5	△10.3	△ 7.5	△ 9.7	△24.0
パルプ・紙・紙加工品工業	△ 8.0	11.0	△ 4.6	7.3	19.8	△10.1
繊維工業	2.1	△ 1.5	△ 1.2	△ 5.5	△11.1	△ 3.1
木材・木製品工業	△ 6.5	4.3	△ 6.4	4.4	3.7	△13.6
食料品・たばこ工業	△ 2.6	2.3	3.2	3.1	△ 5.6	△ 0.8
その他工業	△ 6.2	5.0	△ 5.4	2.8	△ 1.9	△ 7.4
ゴム製品工業	△ 1.2	7.6	△ 0.9	7.4	13.8	△40.5
皮革製品工業	△ 5.6	△11.3	△ 7.4	△14.2	8.2	△28.0
プラスチック製品工業	△ 4.4	5.4	△ 5.0	4.1	△ 4.3	△ 3.2
その他製品工業	△15.5	5.9	△10.9	△ 3.0	△ 5.3	17.1

表－5　財別対前年増減率　（増減率，単位：%）

財	生産 56年	生産 57年	出荷 56年	出荷 57年	在庫 56年	在庫 57年
鉱工業	0.3	0.0	2.0	2.2	5.5	△ 6.1
最終需要財	1.7	1.1	6.7	3.8	3.3	△ 4.0
投資財	△ 0.9	0.5	2.3	5.0	4.0	0.4
資本財	2.9	1.7	8.9	3.3	18.7	△ 3.6
建設財	△ 8.2	△ 2.2	△ 7.8	7.9	△ 7.2	4.2
消費財	5.8	1.8	12.5	2.1	2.5	△ 9.8
耐久消費財	14.9	2.3	25.2	3.0	12.2	△12.4
非耐久消費財	△ 1.6	1.4	4.2	1.4	△ 6.1	△ 7.2
生産財	△ 1.4	△ 1.3	△ 3.0	0.5	7.7	△ 7.9
鉱工業用生産財	△ 0.9	△ 1.2	△ 2.8	0.9	8.1	△ 7.4
その他用生産財	△12.2	△ 1.7	△ 4.8	△ 5.4	0.4	△14.9

乏しいことから，1～3月期0.2%とわずかに上昇，4～6月期△0.6%低下，7～9月期3.9%と一時上昇したが10～12月期△3.5%と再び低下した。在庫は，輸出の不振を受けて1～3月期△0.8%，4～6月期△4.5%と低下し，7～9月期1.0%，10～12月期2.1%と上昇した。前年同期比でみても，生産，出荷及び在庫とも各期低調であった。(表－3，図－2参照)

また，業種別生産指数をみると，従来(53～55年)本県の生産指数の高水準に大きく寄与してきた一般機械工業が，前年に引き続いて低下したのをはじめ，素材型産業のうち窯業・土石製品工業及び化学工業並びに金属製品工業等の低下が目立った。一方上昇したのは，電気機械工業はじめ，パルプ・紙・紙加工品工業等であった。

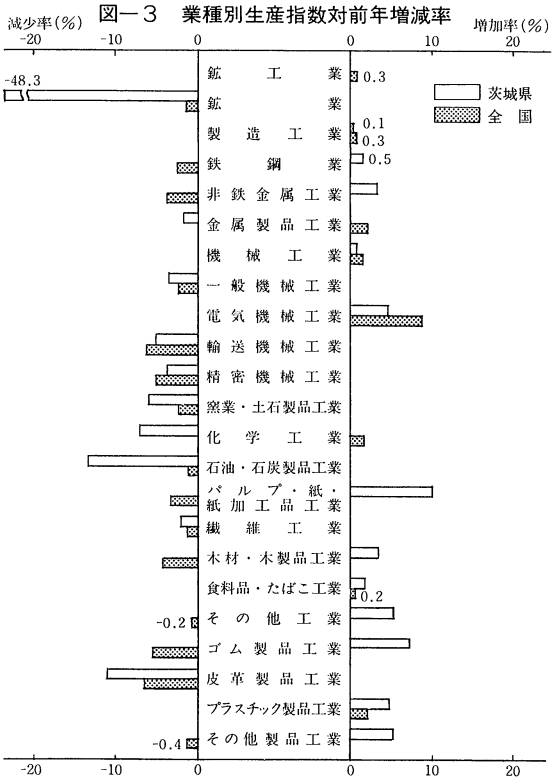
なお，機械工業全体ではウエイトの大きい一般機械工業の不振等から，ほぼ横ばい状態である。(表－4参照)

次に財別の出荷をみると，資本財出荷は設備投資の堅調さから3.3%上昇，建設財出荷は金属製建具(アルミニウム)の復活により7.9%上昇，消費財出荷において耐久消費財は底固い動きをみせているが，非耐久消費財は個人消費が回復の兆しをみせたものの，所得の伸び悩み等によって小幅な上昇にとどまった。

以上財別による出荷は，生産財出荷が伸び悩みにより一進一退となっているが，消費財の底固い動きと資本財の伸びに支えられて，前年比2.2%上昇となった。(表－5参照)

なお，本県と全国の指数の動きを比較してみると，生産は本県の前年比0.0%に対し，全国同0.3%とわずかな上昇となった。出荷，在庫とも生産と同様な傾向である。(図－3参照)

図―3　業種別生産指数対前年増減率



3．主要業種の概要

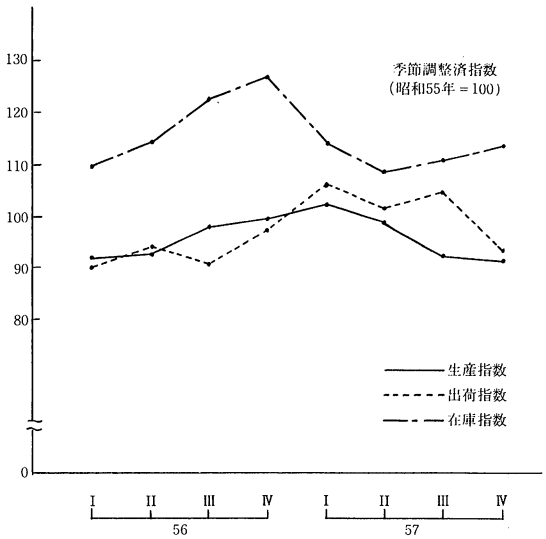
業種別ウエイトの高い主要業種についてみる。

(1) 鉄　鋼　業

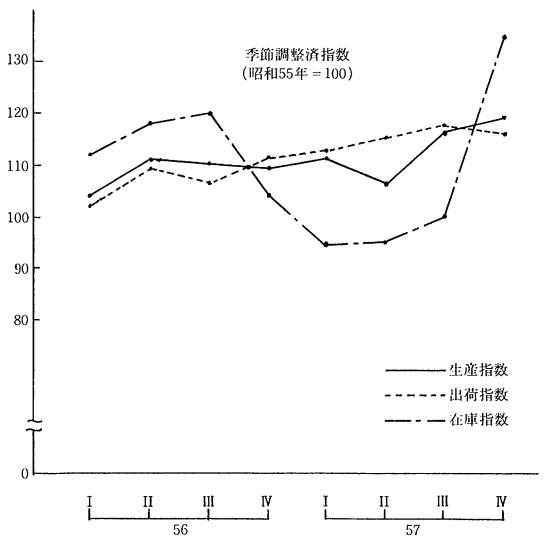
57年の鉄鋼業の生産は，長期化する国内外の景気の低迷から96.3と，前年比0.5%の上昇にとどまっている。出荷については101.1で同8.4%上昇したが，在庫は年後半から在庫調整のため減産が行われたこともあって，111.2で同△5.4%低下となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期は3.2%で56年後半の回復基調を持続したが，4～6月期△3.6%，7～9月期△6.6%，10～12月期△1.1%と支えにしてきた輸出の伸びが停滞したことから，不振の度合を強め3期低下となった。前年同期比でも，7～9月期以降は低下となった。

品目別にみると，鋼帯，特殊鋼熱間圧延鋼材，小型棒鋼等は上昇し，鋼板は横ばい，普通鋼，冷延広幅帯鋼，H形鋼等は低下した。



(2) 非鉄金属工業



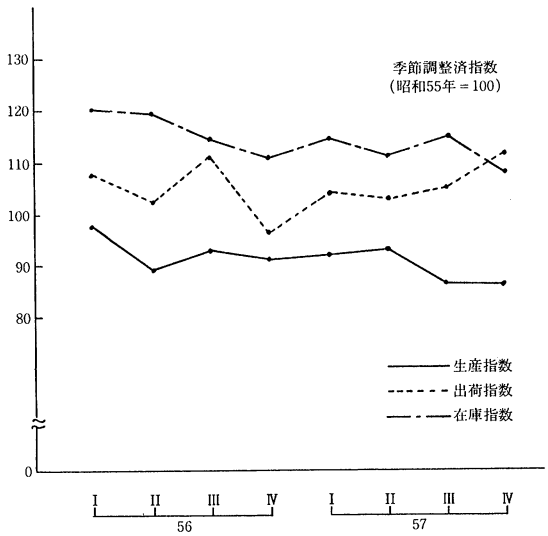
57年の非鉄金属工業の生産は，112.9で前年比4.1%上昇である。これは地金の一部及び加工品が上昇したことによる。出荷も115.0で同7.6%上昇，在庫はアルミニウム二次地金の減少等が反映し，同△7.4%低下となった。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期1.0%上昇したが，4～6月期△4.1%低下し，再び7～9月期9.0%，10～12月期2.1%と上昇した。前年同期比でも，

4～6月期以外上昇の傾向にある。

品目別にみると，銅線，伸銅品，電気銀等が上昇したが，構造的要因から長期にわたり低迷を続けているアルミニウム線の低下が目立ち，電気銅，銅合金鋳物等も低下した。

(3) 一般機械工業

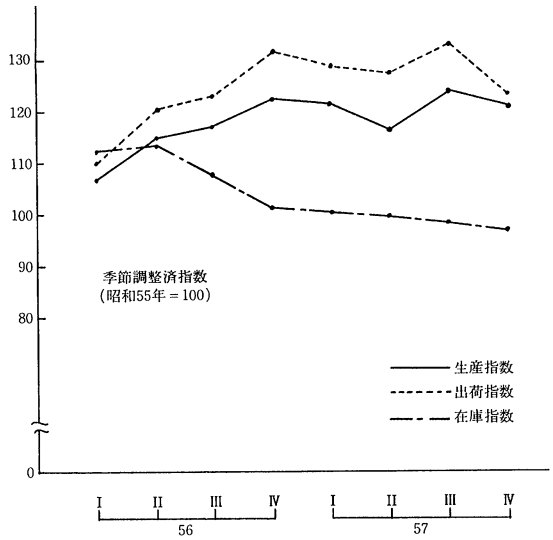


57年の一般機械工業の生産は，内需の冷え込みや輸出の不振により，107.7で前年比△3.5%低下となった。出荷は105.4で同△0.2%，在庫も112.0で同△3.7%とともに低下した。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期1.6%上昇したが，4～6月期△0.9%，7～9月期△7.6%，10～12月期△0.6%と3期続けて低下した。前年同期比も4～6月期一時上昇した以外低下している。

品目別にみると，ウエイトの大きい土木・建設機械では，装輪式トラクター(20馬力以上)等は上昇しているが，内需の不振に加え輸出も減少の傾向を示しており，トラッククレーン，ショベル系掘さく機械等が低下した。運搬機械ではエレベーター，エスカレーター等が低下し，事務用機械では，O・A機器の底固い需要が反映して電卓(記録式)，複写機等が上昇している。その他の品目ではタービン，化学機械，印刷機械等が上昇し，乗用車用エアコン，電動工具等が低下した。

(4) 電気機械工業



57年の電気機械工業の生産は，民生用電気機械，電子応用装置等が堅調な推移を示し，121.1で前年比4.8%上昇，出荷も128.5で同5.9%上昇，在庫は98.3で同△9.8%低下した。

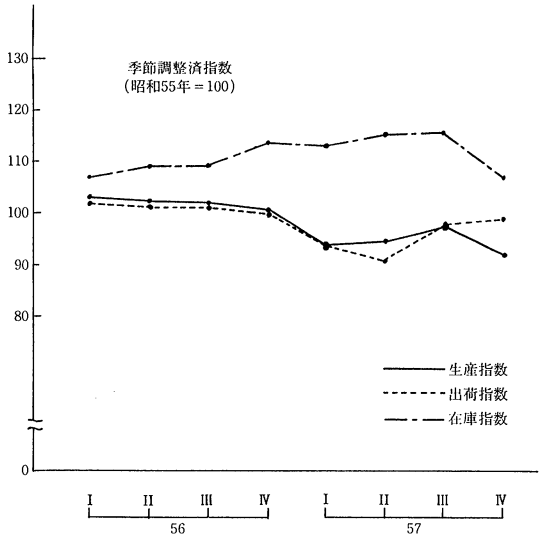
生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期△1.1%，4～6月期△4.4%と低下，7～9月期7.1%上昇したが，10～12月期再び△2.4%低下している。前年同期比は，7～9月期までは上昇し，10～12月期若干低下した。

品目別にみると，発電機・電動機では，直流機・交流発電機等が上昇し，交流電動機等が低下した。ウエイトの大きい産業用電気機械では，一般用制御装置，高圧しゃ断器等が上昇し，配電盤，非標準変圧器等が低下した。民生用電気機械では，電気洗たく機，電気掃除機等が上昇し，家庭用電気ポンプ，洗たく物乾燥機等が低下した。照明器具類は上昇しており，テレビ・ラジオでは，ビデオが好調な反面他のものは低下した。

(5) 窯業・土石製品工業

57年の窯業・土石製品工業の生産は，公共土木工事が低調に推移したことから95.1で前年比△6.3%低下，出荷も生産と同様な動きを示し，95.8で同△5.2%低下，在庫は112.8で同3.4%上昇となった。

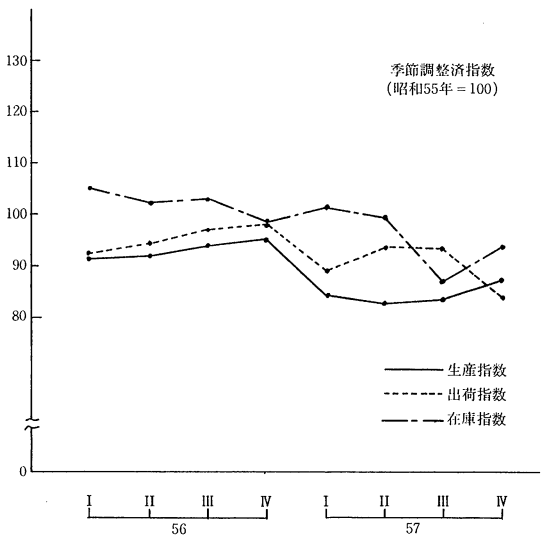
生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期△5.6



%，4～6月期△0.4%と低下，7～9月期4.9%と一時上昇したが，10～12月期△5.9%と再び低下した。前年同期比は，各期とも低下した。

品目別にみると，ガラス繊維製品，石綿スレート等は上昇し，遠心力鉄筋ポール，内装タイル等は低下した。

(6) 化学工業

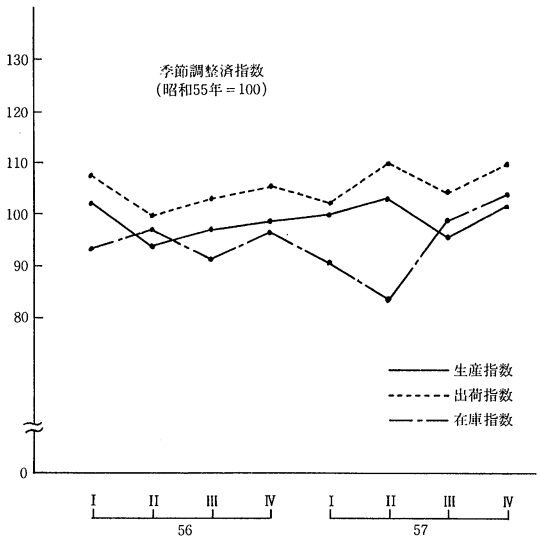


57年の化学工業の生産は，85.2で前年比△7.2%低下，出荷は90.0で同△5.5%，在庫は95.2で同△6.7%ともに低下した。

生産の年間の動きは前期比でみると，1～3月期△9.5%，4～6月期△2.7%と低下し，7～9月期0.8%，10～12月期3.8%と上昇してきた。前年同期比は，各期とも低調であった。

品目別にみると，化学肥料，複合肥料等は上昇し，アンモニア，尿素等は低下した。有機化学におけるエチレン等は上昇し，純ベンゾール，スチレンモノマー等は低下した。プラスチックの塩化ビニール樹脂等は上昇し，合成ゴムは低下した。

(7) 食料品・たばこ工業



57年の食料品・たばこ工業の生産は，99.6で前年比2.3%，出荷も106.4で同3.1%とともに上昇し，在庫は93.6で同△0.8%低下した。

生産の年間の動きを前期比でみると，1～3月期1.0%，4～6月期3.4%と上昇し，7～9月期に△7.8%と一時低下したが，10～12月期6.3%と再び上昇となった。前年同期比は，1～3月期に低下しているが，以後上昇している。

品目別にみると，加工食品では，肉製品，飲用牛乳等が上昇し，パン，米菓等が低下した。飲料ではビール，清酒が上昇し，たばこもまた上昇した。

（統計課・企画分析グループ）